

平成29年度第1回山形県健康長寿推進協議会における主な発言概要

日 時：平成29年11月20日（月）

午後5時30分～午後7時

場 所：山形県庁1001会議室

【協議】今後重点的に取り組むべき課題と方向性について

資料3-1について（健康やまがた安心プランの評価指標の現状）について

【意見】 糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数に関する評価がDだが、透析導入者は主に60歳代後半から70歳代が多く、本県はこの人口が増加しているという社会的背景がある。腎臓学会、透析学会は、同じ条件で換算すれば導入率は減っているという評価である。逆に今後は高齢者が減るので導入者数は減る。平成34年度に評価するときは注意が必要である。

資料5（プランの中間見直しによる今後重点的に取り組む課題と方向性）について

【意見】 糖尿病は比較的若年者、40歳代、50歳代の特に働き盛りがコントロールできていない。企業は、健診結果を従業員に十分伝え、このままだと10年後こうなるぞと教え、きちんと若い人を治療に導いていくことが必要である。

【意見】 ここ1、2年二次健診の受診に力を入れているが、従業員は仕事が忙しいとか休みが取れないとかで、なかなかうまくいかない。有所見者率を下げようと頑張っているが、素人では難しく、会社では週何日でもいいので保健師さんが来て相談ができればと話している。

資料6（条例に関する論点整理）について

【意見】 全国の健康条例の策定状況、及び策定後の効果について教えてほしい。

【回答】 健康に関しては全国で6つ条例を作っている。どれだけ効果があったかは確認できていない。

【意見】 条例ができることで今後県が取り組むことを具体的にしてほしい。

【意見】 条例をどんな形に県民に伝え具体的に何をするか、今後5年間強調して取り組むことを取り組むことを分かるようにしてほしい。

【意見】 条例における財政上の措置について、先日若くして娘さんを大腸がんで亡くされた建設会社の社長さんが、若者のがん対策に役立ててほしいと県に寄付されたことが新聞で報じられていたが、多くの人達から幅広い協力を得て、健康づくりの取り組みを今後支えていくことができれば、非常によいと思う。

以上